

あ る 日 曜 日

統計課・人口労働グループ

海老根 信 水



ある日曜日の朝、日頃の疲れを癒すべく朝の眠りを楽しんでいると何かが腹の上を登っていく。次に顔の上を通過していく。揚句のはては鼻の穴に指を入れてくる。隣を見ると妻が鼾をかいて寝ている。我家で一番の早起きは1歳半になる息子だ。こうして疲れをとるはずが増々疲れる日曜の始まりである。

余暇の過ごし方が出来ない日本人を象徴するかの如く、日曜日はすることがない。ゴロンと横になってせいぜいテレビを見るぐらいである。読書とかショッピングとかやりたいことは沢山あるが、例の息子がいてはそれも出来ない。大人のすることは何でも真似したがる。最近抱っこしろとか、物を取れとか要求するようになった。要求が入られないとダダをこねて泣き出す。子守りをしながらゴロゴロしていると、妻からは粗大ゴミ扱われる。

突然「今日は天気がいいから散歩がてら弁当を持って外でお昼にしよう」と決まる。一家そろっていざ偕楽園へ。息子はどこに行くかはわからずただ外に出るのが嬉しくてはしゃいでいる。駐車するのに苦労し園内で弁当を食べる頃には、晴れていた空がどんよりと曇り空に。暖かかった日も急に寒々とし雨がポツポツ落ちてくる。急いで車に戻り我家へ帰る。親の苦労も知らず息子は疲れも手伝って昼寝である。この2時間余りがホッとする時間だ。お茶を飲んだり新聞を読んだり。(新聞を出しておくとも息子が破いて丸めてしまう。)こ

の平和な時がずっと続いてくれれば……，と思うやいなや襖がガタガタとなる。「それ起きた。片付けろ！」掛け声と共にテーブルの上の湯飲み、お茶菓子、本など手の届くものは全て片付ける。

話は変わって、最近「サザエさん症候群」という奇病(?)がサラリーマンの間で流行しているそうである。これはどういうものかと言うと、「サザエさん」は日曜の夕方に放送される。当然翌日の月曜は仕事である。これを何年も繰り返していると、条件反射で「サザエさん」を見ると仕事が頭に浮かび憂うつな気分になるそうである。また、「サザエさん」のエンディングで、「サザエさん一家」全員が小さな家の中に入ると見ると、むなしくなるそうである。私はまだこの奇病に感染はしていないが、「サザエさん」を見ると日曜が終わったと感ずるのは事実である。

妻は日曜には息子を私に預けて悠々とし、息子は平日いない私に遊んでもらえるので大喜びしている。私は仕事の疲れの上に日曜疲れを加えて、月曜日出勤する次第である。





# 経 済 動 向

## 国内の動き

### ●工場立地計画社数、過去最高65.4%増

日本立地センター(通産省の外郭団体)はこのほど1988年度新規工場立地計画(速報)をまとめた。

好調な景気を反映して、現段階で新規の工場立地を計画している企業数は258社で、前年度調査比65.4%増と78年度に調査を始めて以来最高の伸び率となった。

工場立地を計画している企業の進出希望地(複数回答)は関東臨海(埼玉、千葉、東京、神奈川)が0.7ポイント低下

### ●大型店販売6.7%増

通産省は27日、88年の大型小売店販売統計速報をまとめた。個人消費の好調を反映し、販売額は17兆8837億円で前年比6.7%増と81年(8.0%増)以来、7年ぶりの高い伸びとなった。商品別にみると、カジュアル衣料、高級衣料ともに売れ行きが好調だった衣料品が6.8%増と80年以來の高

### ●「豊かさ実感」22%

総理府は29日「経済構造調整に関する世論調査」の結果を発表した。

現状の生活で「豊かさを実感している」と答えた人は22.4%、「実感していない」人は69.2%といぜん国民の生活満足度は低い。理由としては「税金・社会保険料の負担が重い」「国の経済力の割には個人の所得が少ない」がともに6割

の14.0%、東海が6.2ポイント低下の11.7%、近畿臨海が5.6ポイント低下の6.0%と大都市圏で低下している。一方で北東北が4.3ポイント上昇の4.3%、南東北が5.0ポイント上昇の10.3%、山陰が2.0ポイント上昇の2.0%で地方分散傾向が表れ始めた。これは大都市での労働力不足や土地価格の高騰が原因とみられる。(日経 1月5日付)

い伸び。ギフト商品や生鮮食品がよく売れた飲食品も5.1%増と高い伸び率となっている。

業態別にみると、百貨店の販売額が9兆5518億円で前年比7.6%増、セルフ店の販売額が8兆3318億円で5.8%増といずれも好調だった。(日経 1月28日付)

(いずれも複数回答)。

また、政府が「豊かさを実現するため」として推進している経済構造調整も賛成する人は3割にとどまった。政府開発援助(ODA)の5年倍增計画に対しては賛成する人が約17%で、「現状程度でよい」との意見が約34%と最も多かった。(日経 1月30日付)

## 県内の動き

### ●最高路線価、10.5%と2ケタ上昇

関東信越国税局は27日、平成元年分の最高路線価を発表した。

県内の平均引き上げ率は10.5%で前年を6.0ポイント上回り過去10年間で最高となった。地価高騰の東京都心を避け、県南地域など割安感のある土地を求める動きがここ2、3年ますます顕著になってきている。

取手市の取手駅東口駅前通りは、引き上げ率29.0%で2

### ●景況、着実に拡大

大蔵省関東財務局水戸財務事務所は30日、県内の昨秋以降の経済情勢をまとめた。個人消費が依然順調なほか、設備投資なども好調で、引き続き着実に拡大しているとしている。また先行きについても内需主導で好況を維持するとの見方が多い。

個人消費は大型小売店がコート、スーツなど冬物衣料を中心に好調。乗用車も上級車種を中心に増加、観光・レジ

年連続トップとなり価格順位も日立市を抜いて3位に上がった。県内で最も東京都心に近く、埼玉県など他の東京周辺部に比べるとまだ割安感があるため需要が集中した。

水戸市の水戸駅前通りも、北口開発事業に対する期待感から前年を2.2ポイント上回り9.1%の引き上げ率となった。(日経 1月28日付)

ャー面でもオーストラリア、東南アジア方面への海外旅行が引き続き高水準で推移している。

生産はほとんどの業種で増加。住宅着工は前年水準を下回るものの、毎月3,000戸前後で高位安定している。

企業収益は50%を超える大幅増益の見通し。

(日経 1月31日付)